

# 栃木県現代俳句協会報

No. 170



第一七〇号

発行所

〒三三七-〇三二五  
佐野市吉水駅前一丁目一八水口方

栃木県現代俳句協会

発行人

中井洋子

編集人

松本登子

令和五年七月十日発行

## 支部句会報告

広報部

- ①開催日
- ②開催場所
- ③会員数
- ④講師
- ⑤支部長
- ⑥近況(五月現在)
- ⑦会員作品

### \* 昇句会

(県南支部)

- ①毎月第二月曜日
- ②小山市立生涯学習センター
- ③三十二名
- ④和田浩一
- ⑤小杉栄美子
- ⑥会場である楽習センターが新年度より、市役所の管轄に変わり、事務手続きに若干の戸惑いが生じた。  
コロナ禍に対応して、通信句会やマスクの着用の学校方式の句会を推進してきたが、「五類」への移行により、句会の机配置や時間の延長など緩和対策を検討している。  
尚、高齢化などによる参加率の低下対策が、目下の課題です。

### ⑦作品

臍の緒の箱に父の字昭和の日  
昭和の日いまだ銃持つこともなく  
扉越しに渡す回覧柿若葉  
鯉のぼり喧嘩をしたりはしゃいだり  
和田浩一  
中村克子  
青木廣子

航跡の末広がり旅始  
春の野性閉ざして冬の華厳かな  
ジャングルジムから次々と春の色  
鳥曇り子らわちやわちやと駄菓子屋へ  
宇津木玲華  
王 騎  
神山姫余  
北島洋子

春愁を妻に感<sup>うづ</sup>染してしまいいけり  
大晦日夕日に向い一札す  
農の手の舞しなやかに春神楽  
真剣に一日一善老いの春  
青葉風お地藏さんの薄目して  
初湯出ておろす真白きベピー服  
観音の衣を引いて春の雲  
牛井屋に大小の背ナ啄木忌  
春惜しむ弥勒の指の薄埃  
須藤正之  
高木洋子  
高田栄子  
田中房子  
戸田富美子  
中村亜希子  
沼田 満  
根本奈穂子  
橋本尚子



昇俳句会

陶工の泥の前掛け春火鉢  
 新築のあいさつ二人ミモザ咲く  
 煮魚の眼の裏しやぶり春の鬮  
 かみ合わせ会話ロボット花の屋  
 俗名の位牌に供う柏餅  
 ペダルこく光も風も春きざす  
 逆さまに読んで脳活草の餅  
 空き缶を蹴つて男の黒日傘

原田利江  
 堀 秀子  
 松本幸子  
 松本登子  
 柳 浩二  
 遊座純子  
 横井康子  
 和田璋子

**\*二 毘 句 会**

(県西支部)

- ① 毎月第二木曜日
  - ② 佐野市城山記念館
  - ③ 十一名
  - ④ 石倉夏生
  - ⑤ 山野井朝香
  - ⑥ コロナ禍の長いトンネルを抜け、今年度は新人さん三人を迎える事ができ、レギュラー十一名になりました。又、三年振りに花見会の宴を開く事ができ、お互いの健康を確認し今後への更なる飛躍を話し合いました。
  - ⑦ 作品
- 竹皮を脱ぐ戦争は終らない      石倉夏生  
 二列目で君の横顔みてる夏      早川 激

礼状の決まらぬ末尾夏初め      北島洋子  
 青唐辛子二人暮しを囃される      松本簾子  
 早苗田に空母のごとき屋敷あり      中田陽子  
 いちめんの雛豊粟ホレロの浮遊感      水口圭子  
 てのひらへ朝の錠剤太宰の忌      相田勝子  
 パソコンの指は蜜の匂いして      山野井朝香



三 毘 俳 句 会

**\* 毘 の 会**

(宇都宮支部)

- ① 毎月第三土曜日
- ② 宇都宮市生涯学習センター
- ③ 六名
- ④ 速水峰郵
- ⑤ 中村國司

⑥ 毎回十名以上の参加で、にぎやかな句会となっている。句会だけでなく、吟行会をやって欲しいとの声もある。その一方で長期間欠席者もいるので、目先の変化が欠席解消につながればと、吟行会を真剣に考えている。

⑦ 作品

一坪の極楽浄土花見酒      速水峰郵  
 聖五月ぶちんぶちんとハーブ摘む      池澤光子

おのが身のひかり知らざり梅雨の鷺

鯉沼桂子

転生はちやんと花嫁桐の花

中村國司

AIの音声ニュース梅雨寒し

森本金一

**\* 山 麓 句 会**

(栃木支部)

- ① 偶数月の第三水曜日
- ② 蔵の街楽習館
- ③ 十名
- ④ 中井洋子
- ⑤ 佐々木輝美
- ⑥ 以前は大平のふるさとふれあい館で開催していましたが、二年前から蔵の街楽習

館に移りました。街の中でアクセスも良く駐車場も完備、設備も良く使い易い場所です。悩みは会員の高齢化で休む人が多い事です。新しい方歓迎、是非ご参加下さい。

⑦作品

青春も老年も密飛花落花 中井洋子  
春泥をとんで齢を遠ざける 中村克子  
うつ兆すとき買物籠へパセリ 斉藤雅子  
蚕豆の花に戦の色を見し 山野井朝香  
悔やんだら負け桜蕊降る橋の上 佐々木輝美

\*きらら句会

(上都賀支部)

- ① 毎月第二木曜日
- ② 日光市南原コミュニティセンター
- ③ 八名
- ④ 須藤火珠男
- ⑤ 本間睦美
- ⑥ 令和五年四月より、対面での句会を再開することができました。コロナ禍の期間中に、新会員が三名増えました。俳句作りの経験の長短に関係なく、須藤先生の

ご指導の下、どの会員も新鮮な気持ちで俳句作りを楽しんでいます。

⑦作品

花の滝じんじん人生八十路かな 須藤火珠男  
私には恋難しき青葉木菟 とみながゆきこ 佐藤紀生子  
夏霧や声に振り向く尋ね人 北山暁電  
夏めくや八分音符の旗泳ぐ 井ノ上節子  
幾世をば映せし田水夏立ちぬ 篠原幸子  
春紫苑住所不定の戸籍はありや 柴田直子  
大藤を賞づ人波やおぼろ月 本間睦美  
終点は太宰府黄砂の旅終はる

諸家近詠

追ひつかぬかけつこ雪うさぎになる 本間 睦美  
過去問のページの付箋冬落暉  
握り飯ふたつのランチ山笑ふ

手の届く距離の君待つ春満月  
風光る一打一喜のホームイン

篠原 幸子

古民家の屋根より高く桐の花  
春紫苑住所不定の戸籍はありや  
沢鷲さわじゆ飛ぶ早春の空迷いなし  
御慶なり三日天下の嫁が君  
芒原（彌協日光医療センター）「白い巨塔」がお目見えす

佐藤紀生子

輪投げの輪存分投げて去年今年  
自分史に出来ぬこと増え寒稽古  
寒椿生きる力や朝の空  
囀りに目覚め包丁どれ使う  
絮たんぼぼ一途に飛ばす蟬り

水口 圭子

共に見て来し白鳥の数違つ  
立春の野に立ち少年は光の矢  
バンクシーの赤い風船戦場へ  
採血の液もれば蝶のかたち  
凍返る大地大江健三郎逝く

# 第68回俳句研究会のご案内

- ☆期 日 令和5年9月3日（日）
- ☆会 場 宇都宮市中央生涯学習センター 205号室
- ☆吟 行 地 二荒山神社、宇都宮城址
- ☆投 句 締 切 13時 囁目3句（投句と同時に受付、昼食は予め済ませて下さい）
- ☆句 会 13時30分～15時45分
- ☆通信句会顕彰 15時45分～16時
- ☆会 費 500円

◎宇都宮市中央生涯学習センター  
 〒320-0806  
 宇都宮市中央1-1-13  
 TEL028-632-6331

※本年度事業計画とは期日が異なりますのでお気をつけ下さい。

※通信句会の顕彰を行いますので特別選者の方は染筆1点をご持参願います。

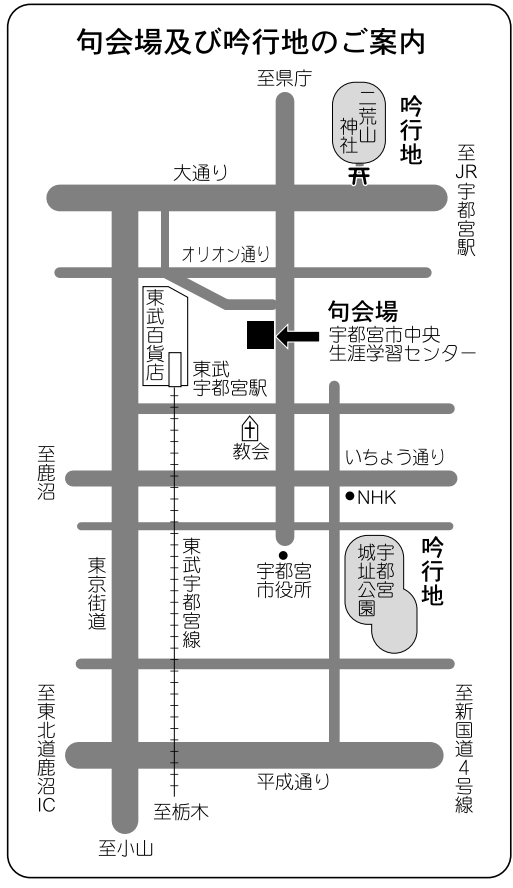
※熱中症及び感染症の対策を各自よろしくお願ひいたします。

宇都宮支部 中村國司  
 (080-1117-5751)  
 第一事業部 増山ちさ  
 (0282-27-1451)

◎状況により内容変更の場合あり

※次回171号の原稿締切りは9月10日です。

## 句会場及び吟行地のご案内



祝  
**句集出版**

『相聞歌』片桐 基城  
 令和五年五月十日発行  
 現代俳句協会

落款のけふは真直ぐに筆始  
 くたくたに草臥れてゐる紙風船  
 玉葱を剥けばあした光つてゐる

(自選十句より)